

令和2年度人文学部一般入試（前期日程、令和2年2月25日実施）の情報開示  
解答例

入試の区分	一般入試（前期日程）
学部学科等	人文学部
教科・科目名	国語／国語総合
解答例	<p>1</p> <p>問1 (ア) 軌跡 (イ) 経緯 (ウ) イントウガイ (エ) か (オ) 疎通</p> <p>問2 人間の言語の起源を論じるためには、「人間の言語」が何を指すのか明らかにしなければならぬから。(47字)</p> <p>問3 a：視覚 b：触覚 c：聴覚</p> <p>問4 d：個体 e：種 f：個体</p> <p>問5 先端の医療画像技術がサルの研究に応用されて、言語音の制御に関わると考えられていた咽頭降下という現象が、言語を用いないチンパンジーに確認されたから。(73字)</p> <p>問6 ウ</p> <p>問7 成員</p> <p>問8 必要条件</p> <p>問9 h：分節性 i：文法性 j：無限の生産性 k：非即場性・非即時性</p> <p>問10 H</p> <p>問11</p> <p>(解答例1) ヒトには、言語という機能に特化した器官がないため、種の身体の進化の段階の観察から、言語の起源を特定することは困難である。動物のコミュニケーションとは異なるヒトの言語の特徴を考えると、記号を規則に従って組み合わせ、無限の情報を生成することができ、またその場やその時にないものを話題にできるということであり、それを可能にするのが記憶・理解・分析能力などの認知機能の発達であるから。(189字)</p> <p>(解答例2) 植物や動物の情報伝達システムとヒトの言語の特徴は①分節性、②文法性、③無限の生産性、④非即場性・非即時性である。イルカの事例を見れば、①②はヒトの言語に特有といえないかもしれないが、①②の組み合わせで、③を可能にし、④のその場やその時にないものを話題にできるのはヒトの言語だけである。認知機能がある程度発達しなければ、③④の段階までの言語の運用は不可能であるから。(182字)</p> <p>(解答例3) ヒトには、言語という機能だけに用いられる器官がないため、身体的特徴の進化から、言語の起源を考えることはできない。動物の情報伝達とヒトの言語の違いは、数万を超える記号を記憶して、それを規則に基づいて組み合わせ、無限の表現を生成し、抽象的な事や非現実も話題にできることである。そのようなヒトの言語が成立するためには、周囲の言語情報を記憶し、分析し、応用することのできる認知機能が必要だから。(193字)</p>

解答例	<p>2</p> <p>問1 (ア) b (イ) c</p> <p>問2 かくれもないようなことであった。</p> <p>問3 どのようなことがあったのであろうか、</p> <p>問4 宇治左府（左大臣藤原頼長）が御自身で公春を打とうとなさったときに、</p> <p>問5 どうして（私を）打ちなさることが許されるのか</p> <p>問6 罪（打とうとしたこと）を謝られて、公春の手からお逃げなされた。</p> <p>問7 今後も私を打とうとするようなことは、どうかなさらないでください</p>
備 考	